

R7除去土壤等集約地分別ヤード新築工事

図面リスト

相馬 康典建築設計事務所 一級建築士事務所 栃木県知事登録A/第3638号 〒329-3222 栃木県那須郡那須町大字寺子丙81-12 TEL 090-4398-1943	一級建築士 (大臣登録 第367608号) 相馬 康典	特記事項	工事名 R7除去土壌等集約地分別ヤード新築工事 図面 表紙・図面リスト	SCALE S=No-Scale	NO. DATE R7.12.01

R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

2章 仮設工事

O2-1 監督職員事務所等 (2.3.1)

- 設ける
- ◎設けない
- 監督職員事務所の規模
- ・10 m程度
- ・20 m程度
- ・35 m程度
- ・65 m程度
- ・100 m程度
- 備品種類・数量
- ()

O2-2 工事用水

- 構内既存の施設
- ◎利用できない
- 利用できる (・有償・無償)

O2-3 工事用電力

- 構内既存の施設
- ◎利用できない
- 利用できる (・有償・無償)

O2-4 足場その他 (2.2.4)

- 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する足場とし、足場または変更の組立て、解体または変更の組立て等に関する基準の(2)手すり据置方式または(3)手すり先行専用足場方式により行う。
・本工事で定置したものと別契約の関係請負者が無償で使用できる。

3章 土工事

O3-1 埋戻し及び盛土 (3.2.3)

- 種別
- ・A種
- ・B種
- ・C種
- ・D種
- ・建設汚泥から再生した処理土[G]

O3-2 建設発生土の処理 (3.2.5)

- 1章 一般共通事項 1-3 発生材の処理等による。

O3-3 山留めの撤去 (3.3.3)

- 鋼矢板等の抜き跡の処理
- ・直ちに砂で充填する
- 山留め壁等の存置
- ・行う (存置範囲 ◎図示)

4章 地業工事

O4-1 載荷試験 (4.2.3.4)

- 載荷試験の方法等
- ・平板載荷試験
- ()箇所 最大荷重 ()t
- 試験を行う長さ GL- ()m 及び土質 ()
- ・杭の載荷試験
- ()箇所 最大荷重 ()t 試験種別 ()

方法及び報告書の記載事項は敷地調査共通仕様書4章7節及び15節による。
試験位置は図示による。

O4-2 既製コンクリート杭地業 (4.2.2) (4.3.3~6,8)

- 種別 ◎既心力高強度プレストレスコンクリート杭(PHC 杭)

試験杭	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種別	総手数	セット数	備考
本杭					

- 杭頭の処理 ◎切断しない
- 先端部形状 ◎開放型・閉そく型・半開放型
- 杭の総手数 ◎アーケル接続手
- ・機械式総手 (建築基準法に基づく指定機関で性能評定を受けたもの)
- 施工方法
- ・セメントミルク工法
- ・特定埋込杭工法
- 掘削深さ
- ・1.5m程度
- 杭の支持層への根入れ長さ
- ・1.0m以上
- 杭の精度
- ・水平方向の位置ずれ
- ・杭径の1/4かつ100mm以下
- ・杭の傾斜
- ・1/100以内
- ・評定条件または認定条件による

O4-3 場所打ちコンクリート杭地業 (4.3.4) (4.5.3~6) (表 4.5.1)

- セメントの種類 ◎普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種[G]
- コンクリートの種別
- ・A種・B種
- コンクリートの設計基準強度
- () N/mm²
- 構造体強度補正
- ・行わない
- ・行う (◎3 N/mm²)

試験杭	杭径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支持力 (kN/本)
本杭				

- 掘削工法
- ・アースドリル工法 (◎安定液使用)
- ・リバース工法
- ・オールケーシング工法 孔内の水張 (◎行う・行わない)
- ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
- ・拡底杭工法 (◎安定液使用)

- 各部配筋参考図2.2④丸型(口)による
- ・図示
- 100mm

- 孔壁測定
- ・行う (・超音波測定器)
- ・行わない
- ・水平方向の位置ずれ
- ・杭径の1/4かつ100mm以下

- 杭の傾斜
- ・1/100以内
- ・評定条件または認定条件による

- 組み立てた鉄筋の総手数
- ◎重ね総手
- 重ね総手の長さ
- ・図示

- スランプ
- ・18cm

O4-4 鋼杭地業 (4.3.5) (4.4.2, 5, 6)

試験杭	杭径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支持力 (kN/本)
本杭				

- 試験杭位置、本数及び寸法
- ・図示

- 先端部形状
- ・開放型

- 掘削工法
- ・中堀り拡大根固め工法

- ・水平方向の位置ずれ

- ・杭径の1/4かつ100mm以下

- ・杭の傾斜

- ・1/100以内
- ・評定条件または認定条件による

- 適用箇所 ◎図示による

- 種類
- ・ねじ式鉄筋総手 (・無機グラウト方式)

杭の現場総手

- ・アーケル接続総手
- ・機械式総手 (総手部に接続金具を用いた方式のもの)
- 工法 ◎審査 (評定または大臣認定) を受けた工法
- 検査 ◎審査 (評定または大臣認定) により定められた項目
- 施工 ◎審査 (評定または大臣認定) された施工管理基準による
- ・◎切断しない
- ・切断する

O4-5 砂利地業 (4.6.2)

- ◎再生クラッシャラン[G]
- ・切込砂利または切込碎石

O4-6 床下防湿層 (4.6.5)

- ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上重ね幅縦縫合 250mm 以上
施工箇所 ◎建物内の土間ラブ及び土間コンクリート下 (ピットを除く)

O4-7 地盤改良

- ◎セメント及びセメント系固化材を使用した地盤改良の施工にあっては、「2018年版建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(平成30年発行)により、施工前及び施工後に指定された試験を実施し、試験結果を監督職員に報告すること。また、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

【試験用土壌の採取方法等】

- ◎採取場所は現場指示によるが、改良土柱部分にからないよう注意して採取すること。

- ・採取土壌の種類 (種類)

- ・採取最深長さ (m)

- ・採取箇所数 (箇所)

◎採取方法

◎バックホウ

・ボーリング

【六価クロム溶出試験】

【現場で採取した試料を用い、施工前及び施工後に環境庁告示第46号に基づき、試験を実施すること。

試験方法

試験内容

実施時期

試験箇所数

試験の必要性

試験方法1

配合設計段階

で行う検査

材齢 7日

土質ごとに実施

必ず実施すること。

試験方法2

施工後の改良

体を検査

材齢 28日

20箇所

試験方法3

タンクーチー

材齢 28日

試験方法2で溶

出量が最大の試

験体を使用

セメント系固化材を用いた深層混合処理工法は、国土交通大臣が指定する指定性能評価機関 (第三者機関) により、技術評価を受けた工法とする。工法採用にあたっては、監督職員の承諾の上、決定すること。なお、下記工法を参照のこと。

【審査認証番号 (審査機関)】

E CM工法

BCJ-審査証明-66 (財団法人日本建築センター)

N Cコラム工法

BCJ-審査証明-60 (財団法人日本建築センター)

スーパーアイマーク工法Ⅱ

BCJ-審査証明-174 (財団法人日本建築センター)

Dコラム工法

BCJ-審査証明-96 (財団法人日本建築センター)

テノコラム工法

技審証第20001号 (財団法人先端建設技術センター)

【O6-1 基準の適用】

◎栃木県有建築物長寿命化実施方針に定める計画保全対象建築物については、(社)日本建築学会 JASS5 による。

【O6-2 コンクリートの種類 (6.2.1) (表 6.2.1)】

◎ I 類

【O6-3 セメントの種類 (6.3.1.2) (13.2) (6.15.2)】

◎普通ポルトランドセメントまたは混合セメントのA種

・早強ポルトランドセメント・高炉セメントB種[G]

・フライアッシュセメントB種[G]

普通ポルトランドセメントの品質は JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱

7日

352J/g 以下

28日

402J/g 以下

【O6-4 骨材の種類 (6.3.1) (6.5.4)】

使用骨材のアルカリシリカ反応による区分

◎A

・B (コンクリート中のアルカリ含量 Rt=3.0 kg/m³ 以下)

【O6-5 混合材 (6.3.1)】

◎混和

R7 除去土壌等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

7-9 溶接部の試験 (7.6.12)

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等

・突合せ継手の食い仕口のずれの検査・補強マニュアル 3.5.2 受入検査による

・抜き取り検査①

・抜き取り検査②

JASS6付則6【鉄骨精度検査基準】の付表3「溶接」に関する試験方法等

・JASS 6 10.4【受入検査】e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標仕7.6.12による補修を行い、再試験する。

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験

○行う

・行わない

・工場溶接の場合

A O Q L ○4.0% · 2.5%

検査水準 ○第6水準

・工事現場溶接の場合

○全数

その他の試験

・試験方法() · 試験箇所()

7-10 鉄鋼面の素地ごしらえ (7.8.3)

種別 · A種 · B種 · C種

7-11 鉄鋼面の鋸止め塗装塗り (7.8.2.4)

塗料の範囲

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲

・図示

耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲

・図示

塗装種別 · A種 · B種

工程種別 · A種 · B種

7-12 耐火被覆 (7.9.2~8)

種別

所要性能及び適用構造区分

・ラス張りモルタル塗り

・乾式吹付けロックウール

・半乾式吹付けロックウール

・湿式ロックウール

・耐火板張り

8-13 アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)

◎構造用アンカーボルト

材質 ○SS400 · SNR490B

埋込み工法 · 図示

◎建方用アンカーボルト

材質 ○SS400

埋込み工法 · A種 · B種

8-14 柱頭均しモルタル (7.2.9)

垂鉛めっきの種別

材料

適用部位

A種(HDZT77) 最小板厚 6mm 以上の形鋼、鋼板類

B種(HDZT63) 最小板厚 3.2~6mm の形鋼、鋼板類

C種(HDZT49) 最小板厚 1.6~3.2mm の形鋼、鋼板類普通ボルト、アンカーボルト

素地ごしらえは、JIS H 9124 溶融亜鉛めっき作業指針による。

8-16 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (7.12.5)

摩擦面の処理

・プラスチック外の特別な処理()

耐力確認方法()

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

8-1 補強コンクリートブロック (8.2.2~5) (表 8.2.1)

ブロックの種類等 (8.2.2)

断面形状及び圧縮強さ

による区分

正味厚さ (mm)

モデュール呼び寸法 (mm)

化粧の有無

適用箇所

備考

・空洞ブロック C(16)

・無 · 有

モルタルの調合 (容積比)

・セメント() : 砂()

各部の配筋

○図示

8-2 コンクリートブロック概要及び規 (8.3.2~4)

ブロックの種類等

断面形状及び圧縮強さ

による区分

正味厚さ (mm)

モデュール呼び寸法 (mm)

化粧の有無

適用箇所

備考

・空洞ブロック C(16)

・無 · 有

・型枠ブロック 20

・無 · 有

塊に用いるブロックの正味厚さ()

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状

各部の配筋

○図示

8-3 ALCパネル (8.4.2~5)

種類

単位荷重 (N/m²)

厚さ (mm)

構法の種別

・外壁パネル

· 1180 · 1960

○100 ·

・A種 · B種

・間仕切り壁パネル

· 980

○100

・C種 · D種 · E種

・床パネル

· 2350 · 3530

· 100 · 150

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材()

外壁、屋根パネルの工法

・建築基準法に基づき定まる風圧力の(· 1 · 1.15 · 1.3)倍の耐風圧性能に対応した工法

・耐震性能 設計用水平震度(· 1.0 ·) 設計用鉛直震度(· 0.5 ·)

・層間変形角(· 1/100 · 1/200 ·)

・耐火性能(· 1時間 · 2時間)

・外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合ならびにパネルと他部材との取合い部の目地幅(mm)

· 10~20 ·

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

<p>薬剤の接着材への混入による防腐・防蟻処理 適用部位：()</p>			
13章 屋根及びとい工事			
・13-1 長尺金属板葺 (13.2.2,3) (表 13.2.1)	屋根葺形式	長尺金属板の種類	塗装の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号
<p>屋根葺工法 ◎図示</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 			
<p>下葺材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスファルトルーフィング 940 ・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般 ・複層材 ・粘着層付) 			
<p>横葺の場合のけらば納め (・つかみ込み納め ・けらば包み納め)</p>			
・13-2 折板葺 (13.2.2) (表 13.3.2,3) (表 13.2.1)	形式	◎重ね形 ・はぜ縫合形 ・かん合形	
形状 (mm)	山高 () 山ビッチ ()	板厚 ◎0.6 - 0.8	
材料 (規格等)	◎標仕表 13.2.1 による ()		
耐力			
軒先面戸板	・有 ・無		
断熱材	・有 (種別: 厚さ)		
耐火性能	・有 (30 分耐火)	・無	
塗装の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号			
<p>タイトフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理 (標仕表 14.2.2 による ・E 種 ・F 種)</p>			
屋根葺工法			
<p>建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法</p>			
・13-3 粘土瓦葺 (13.4.2,3)	種類	・釉薬瓦	
形状	◎J型	・	
寸法	◎53A	・	
瓦繋結用釘及びねじ	種類 ()	径 ()	長さ ()
役物瓦	・有 ()	・無	
JIS A 5208 に基づく凍害試験等			
◎行わない ・行う			
瓦棟木 材質	◎すぎまたはひのき	・	
寸法	◎幅 21 × 高さ 15 (mm)	・	
金物等材質、形状、寸法及び留付方法		◎図示	
棟補強用心材 材質	◎すぎまたはひのき		
寸法	◎幅 40 × 高さ 30 (mm)		
桟木の留付工法	◎図示		
屋根葺工法			
<p>建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法</p>			
風圧力または地震力に対応した瓦の繋結方法			
◎図示による			
・13-4 とい (13.5.2,3) (表 13.5.1)	軒とい		
材種	・着色亜鉛めっき鋼板	・ステンレス鋼板	
・硬質塩化ビニル (・前高角型 ・折板用角型)			
・縦とい			
材種	・配管用鋼管	・硬質塩化ビニル管	
・着色亜鉛めっき鋼板	・ステンレス鋼板	・	
钢管製といの防腐	◎標仕表 13.5.4 による		
防露材のホルムアルデヒドの放散量	◎規制対象外	・第三種	
掃除	◎有 (図示)	・無	
・13-5 雪止め	・有	◎無	
14章 金属工事			
・14-1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2) (表 14.2.1)	◎表面処理は標仕表 14.2.1 による。		
種別	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)		
・AB-1種			
・AB-2種			
・AC-1種			
・AC-2種			
・BA-1種			
・BA-2種			
・BB-1種			
・BB-2種			
・BC-1種			
・BC-2種			
・C種			
陽極酸化皮膜の着色方法	◎二次電解着色	・三次電解着色	
色合い等	・標準色		
	・アンバー	・ブロンズ	
	・ブラック系	・ステンカラー	・
	・特注色 ()		
・14-2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表 14.2.2)			
表面処理方法	種別	施工箇所	
・溶融亜鉛めっき	・A種		
	・B種		
	・C種		
・電気亜鉛めっき	・D種		
	・E種		
	・F種		
・14-3 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2~4) (表 14.4.1)			
野線等の種類	屋外形 (◎25 形 ・19 形)	屋内形 (◎19 形 ・25 形)	

屋外の軒天井、ビロティ天井等の工法		建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法		
野縁、野縁受、吊りボルト及びインサート及び周辺部の間隔		・図示		
補強方法		・		
吊りボルトの間隔(900mm超)		◎図示		
天井のふところ(1.5m以上3.0m以下)		◎標仕14.4.4(8)(7)、(4)による		
天井のふところ(3.0m超)		◎図示		
特定天井		・		
特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件(平成25年国土交通省告示第771号)に基づく工法 ◎適用する				
・適用しない				
14-4 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) (表14.5.1)				
スタッドの高さによる区分に応じた種類				
高さ2.7m以下	高さ4.0m以下	高さ4.0m超、4.5m以下	高さ4.5m超、5.0m以下	5.0m超
◎50形・	◎65形・	◎90形・	◎100形・	・図示
14-5 金属成形板張り (14.6.2.3) (表14.2.1)				
形状	製法	材質	寸法(mm)	板幅(mm)
・スパンドレル型	・押出し ・ロール	◎アルミニウム		
・バネル型	◎プレス			
伸縮調整締手	◎設けない	・設ける(施工箇所は図示による)		
14-6 アルミニウム製笠木 (14.7.2.3) (表14.2.1) (表14.7.1)				
施工箇所	笠木本体 (幅)mm	役物	遮雷導体用ジョイント コネクター及びアース 接続アングル	付属部品
		・有	・無	固定金具及びジョイント金具
		・有	・無	固定金具及びジョイント金具
		・有	・無	固定金具及びジョイント金具
表面処理	()種			
固定金具				
・建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法				
15章 左官工事				
15-1 モルタル塗り (15.3.2.5)				
防水モルタルの防水剤	製造所	◎評価名簿による		
既製自目材	・設ける	施工箇所()	形状()	
	・設けない			
モルタル 床の自目地	・現場調合材料	既調合材料()		
	・設ける	(目地割り ◎2m程度(最大目地間隔3m程度) (種類 ◎押し目地 ・) ・設けない		
15-2 セルフレベリング材塗り (15.5.2) (表15.5.1)				
・せっこう系	・セメント系			
15-3 仕上塗材仕上げ (15.6.2)				
種類	呼び名	仕上げの形状及び工法等		
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S1 ・可とう形外装薄塗材S1 ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S ・内装薄塗材C ・内装薄塗材L ・内装薄塗材S1 ・内装薄塗材E ・内装薄塗材W	・砂壁状 ・ゆず肌状(・吹付け ・ローラー塗り) ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状(・吹付け ・こて塗り) ・着色骨材砂壁状(・吹付け ・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する ・適用しない		
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材S1 ・外装厚塗材E ・内装厚塗材C ・内装厚塗材L ・内装厚塗材G ・内装厚塗材S1 ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 吸放湿性 ・適用する ・適用しない		
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材S1 ・複層塗材E ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RS	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ・◎耐侯形3種 上塗材 溶媒 ・◎水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・◎アクリル系 外観 ・◎つやあり ・つやなし ・メタリック		
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状 ・		
建築内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量		◎規制対象外 ・第三種		
防火材料の指定	◎屋内の壁及び天井の仕上げ材は建築基準法に基づき認定を受けた防火材料とする。			
15-4 マスチック塗材塗り (15.7.2)				
種別	・A種 ・B種			
15-5 ロックホール吹付け (15.12.2.3)				
材料及び接着剤のホルムアルデヒド放散量	◎規制対象外 ・第三種			
種別	色彩	厚さ(mm)	施工箇所	
・一般用	・着色 ・原色	・10 ・15 ・20 ・25		
15-6 ラス系下地 (15.2.4)				

施工箇所	・図示	・	ラス系下地のホルムアルデヒド放散量	◎規制対象外	・
・15-7 こまい下地 (15.2.6)					
施工箇所	・図示	・	こまい下地のホルムアルデヒド放散量	◎規制対象外	・
・15-8 木すり下地 (15.2.7)					
施工箇所	・図示	・			
・15-9 ドロマイトイスター塗り (15.9.1)					
施工箇所	・図示	・			
・15-10 しつくい塗り (15.10.1)					
施工箇所	・図示	・	色しつくい	・適用する	・適用しない
16章 建具工事					
O16-1 見本の製作等 (16.1.4)					
建具見本の製作	・行う	◎行わない			
特殊な建具の仮組	・行う	◎行わない			
・16-2 防犯建物部品 (16.1.6)					
・適用する (・図示	・)				
O16-3 アルミニウム製建具 (16.2.2, 4, 5) (表16.2.1)					
外部に面する建具	※複層ガラスの引違いの場合は100とする。				
種別	枠見込 (mm)	施工箇所			
◎A種	◎70	◎図示	・		
・B種	・	◎図示	・		
・C種	100	◎図示	・		
・防音ドアセット	・防音サッシ	遮音性の等級 ()			
・断熱ドアセット	・断熱サッシ[G]	断熱性の等級 ()			
・耐震ドアセット		面内変形追随性の等級 ()			
表面処理	種別	◎BB-1	・BB-2 (◎ブラン	・ブラック	・ステンカラー)
屋内建具					
表面処理	種別	◎BB-1	・BB-2 (◎ブラン	・ブラック	・ステンカラー)
結露水の処理方法		◎図示	・		
水切り板、ぜん板		◎図示	・		
公共住宅のアルミサッシの品質及び性能					
・「品質・性能基準」による					
種類	材質	線径	網目		
・防虫網	◎合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製	◎0.25mm 以上	◎16~18 メッシュ		
・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm		
・16-5 漆膜建具 (16.2.5) (16.3.2~5)					
外部に面する建具					
種別	枠見込 (mm)	施工箇所			
・A種	◎70	◎図示	・		
・B種	・	◎図示	・		
・C種	100	◎図示	・		
・防音ドアセット	・防音サッシ	遮音性の等級 ()			
・断熱ドアセット	・断熱サッシ[G]	断熱性の等級 ()			
・耐震ドアセット		面内変形追随性の等級 ()			
日射熱取得性の等級 ()					
表面色	◎標準色	・特注色			
水切り板、ぜん板		◎図示	・		
ガラス		◎複層ガラス	・		
・16-6 鋼製建具 (16.2.2) (16.4.2~4) (表16.4.2)					
簡易気密型ドアセット		・適用する	・適用しない		
外部に面する建具の耐風圧性		・S-4	・S-5	・S-6	
・防音ドアセット	・防音サッシ	遮音性の等級 ()			
・断熱ドアセット	・断熱サッシ[G]	断熱性の等級 ()			
・耐震ドアセット		面内変形追随性の等級 ()			
鋼板類					
材料		厚さ			
・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)		・標仕表 16.4.2 による			
・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)		・			
公共住宅の玄関ドアの品質及び性能					
・「品質・性能基準」による					
公共住宅のハイブリッドドアの品質及び性能					
・「品質・性能基準」による					
・16-7 鋼製軽量建具 (16.2.2) (16.5.2~4)					
簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値		・適用する (◎A-3	・)	・適用しない	
・防音ドアセット	・防音サッシ	遮音性の等級 ()			
・断熱ドアセット	・断熱サッシ[G]	断熱性の等級 ()			
・耐震ドアセット		面内変形追随性の等級 ()			
材料	鋼板	◎亜鉛めっき鋼板	・ビニール被膜鋼板	・カラー鋼板	・ステンレス鋼板
鋼板類の厚さ (mm)		◎標仕 16.5.4 による			
召合せ、縦小包み板の材質		◎鋼板	・		
品質規格		◎製造所標準仕様による			
製造所		評価名簿による			
公共住宅のクロゼットドアの品質及び性能					
・「品質・性能基準」による					
工事名称	R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事				
図面名称/縮尺	建築工事特記仕様書 (その4)				図面番号
設計年月日	令和7年 12月 1日				A-04
設計者	相馬康典建築設計事務所 相馬康典				
発注者	那須町				

R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

16-8 ステンレス製建具 (16.2.2) (16.4.2) (16.6.2~5)
簡易密閉の簡易気密性能値
・防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ()
・断熱ドアセット・断熱サッシ[G] 断熱性の等級 ()
・面内変形追随性の等級 ()

ステンレス建具の鋼材の種類

施工箇所 鋼材の種類

屋外 ○SUS304, SUS430J1, SUS443J1

屋内 ○SUS304, SUS430J1, SUS443J1

表面の仕上げ ○H.L.仕上げ・鏡面仕上げ

鋼板の曲げ加工 ○普通仕上げ・角出し仕上げ

16-9 木製建具 (16.7.2~4)

・フラッシュ戸

合板の種類 規格等

・普通合板[G]

表面の樹種

生地、透明塗料塗り (○ラワン合板程度)

不透明塗料塗り (○しな合板程度)

板面の品質 ()

・天然木化粧合板[G]

樹種名 ()

・特殊加工化粧合板[G]

化粧加工の方法 (オーバーレイ・プリント・塗装)

表面性能 () タイプ

防虫処理 (行う・行わない) 接着の程度 (1類・2類)

表面板の厚さ ○標表16.7.6による

建具材の含水率 ○A種

・かまち戸 かまち樹種 () 鏡板樹種 ()

・ふすま

張りの種別 (I型・II型)

上張り (押入等の裏側以外)

・鳥の子・新鳥の子またはビニル紙程度

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量

・規制対象外

公共住宅の内装ドアの品質及び性能

・「品質・性能基準」による

公共住宅の量産すまの品質及び性能

・「品質・性能基準」による

16-10 建具用金物 (16.8.2, 3) (表 16.8.1~3)

建具金物の種類

種別

・本締まり付きモノロック

・シリンドラック

・シリンドラ本締まり錠

・ドアクローザ

・ヒンジドローザ

・フロアヒンジ

・ハンドル

吊金物

・T番 (内部建具については、軸を鉄芯としてもよい)

・ピボットヒンジ

○ステンレス製 (軸は鋼製 外部用は軸も含めてステンレス製)

公共住宅の各戸建具用金物 (公住仕16.8.2~4)

各戸戸玄関扉及び勝手口扉用前の品質及び性能

・「品質・性能基準」による

各戸戸玄関扉用及び内装扉用ドアクローザの品質及び性能

・「品質・性能基準」による

玄関扉用ドアローザ ○A型・B型・C型・D型 色彩 ○シルバー

内装扉用ドアローザ 使用する (○E型 色彩 ○シルバー・ブルー)

内装扉用戸当材質 ○ステンレス

金属製建具用丁番 材質 ○ステンレス

形状、寸法 ()

木製建具用丁番 材質 ○ステンレス

形状、寸法 ○102×2.0

○16-11 鍵 (16.8.4)

マスターキー 製作する ○製作しない

その他の鍵 ○各室3本1組

16-12 自動ドア閉鎖装置 (16.9.2, 3) (表 16.9.1~5)

引き戸用駆動装置

自動ドア 性能 引き戸用検出装置の種類 凍結防止 防錆

・耐電圧、温度上昇、耐久性 ()

・光線 (反射) スイッチ (適用箇所は、建具表による)

・熱熱スイッチ 行わない

・音波スイッチ

・光電スイッチ

・電波スイッチ

・タップスイッチ

・押しボタンスイッチ

・ペダルスイッチ

・多機能トイレスイッチ

多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置

開閉方法 ○片開き

耐電圧、温度上昇、耐久性 (サイクル)、防錆、電源

○標表16.9.2による

・耐電圧 () 温度上昇 ()

・耐久性 (サイクル) () 防錆、電源 ()

引き戸用検出装置

放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源

○標表16.9.3による

・放射無線周波数電磁界耐性 () 耐電圧 ()

・防錆 () 防滴 () 電源 ()

戸の開閉方式 ○

引き戸検出装置の種類 (引き戸検出装置標表16.9.4) ○

凍結防止装置 ○適用する () ○適用しない

16-13 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表 16.10.1)

品質規格 ○標表16.10.1 製造所標準仕様による

○評価名簿による

16-14 重量シャッター (16.11.2, 3) (表 16.11.1)
シャッターの種類 耐風圧強度
・管理用シャッター 耐風圧強度 () N/m ²
・外壁用防火シャッター 耐風圧強度 () N/m ²
・屋内用防火シャッター

開閉方式による種類 ○上部電動式 (手動併用) 上部手動式
・管理用シャッター ○危険防止装置
・鋼板の種類 JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量 ○Z12 またはF12

16-15 軽量シャッター (16.12.2~4)
開閉方式による種類 ○手動式 上部電動式 (手動併用)
耐風圧強度 ○() N/m ²
スラットの材質 JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 ()
・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)

スラットの形状 ○インターロッキング形 オーバーラッピング形
・4mを超える
耐震性能 設計用震度 水平方向 (Kh) ○1.0 垂直方向 (Kv) ○0.5
建物の構造種別 層間変位量 (h=支点間距離)
・4m以上 ○±(1/150)×hかつ絶対量 20mm以下

16-16 オーバーヘッドドア (16.13.2, 3) (表 16.13.1)
セクション材料 耐風圧 開閉方式 収納形式 ガイドレール
による区分 (Pa) による区分 による区分 による区分
区分 (Pa) による区分 による区分 による区分 による区分
・スチールタイプ ○125 (1250Pa) ○パネル式 ○スタンダード形 ○溶融亜鉛めっき鋼板

・スチールタイプ ○125 (1250Pa) ○パネル式 ○スタンダード形 ○溶融亜鉛めっき鋼板
・アルミニウムタイプ ○100 (1000Pa) ○チェーン式 ○ローヘッド形 ○メタルヘッド形
・ファイバーグラスタイプ ○75 (750Pa) ○電動式 ○ハイリフト形 ○スチールカルブ
・50 (500Pa)

16-17 ガラス (16.14.2~4) (9.7.3)
・フロート板ガラス
・型板ガラス
・網入磨きガラス
・合わせガラス

<table

R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

19-6 ゴム床タイル (19.2.2)
種類
・単層
・複層

19-7 カーペット敷き G (19.3.2, 3) (表 19.3.1)

種別	バイル形状	色柄	帶電性	糸の種類	工法
・A類	・カットバイル	◎無地	◎適用する	・	◎ヒートポンド工法
・B類	・ループバイル	柄物	・適用しない		
・C類	・カット、ループ併用				
・タフテッドカーペット					
バイル形状	バイル長 (mm)	工法	帶電性		備考
・カットバイル	◎5~7	・全面接着工法	・適用する		
・ループバイル	◎4~6	・グリッパー工法	()		
・カット、ループ併用	・		・適用しない		
バイル形状	種別	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考	
◎ループバイル	◎第一種	◎500×500	◎6.5	平場 ◎市松敷き	・模様流し
・カットバイル	・第二種	・	・	階段 ◎模様流し	・市松敷き
・カット、ループ併用					

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗材			・◎平滑仕上げ
(弹性ウレタン樹脂系塗床)			・防滑仕上げ
・			・つや消し仕上げ

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗材			・薄膜流しのエ工法
(エポキシ樹脂系塗床)			・厚膜流しのエ工法
・			・樹脂モルタル工法

塗料のホルムアルデヒド放散量	◎規制対象外	・

19-8 合成樹脂塗床 (19.4.2, 3) (表 19.4.5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗材			・◎平滑仕上げ
(弹性ウレタン樹脂系塗床)			・防滑仕上げ
・			・つや消し仕上げ

19-9 フローリング張り [G] (19.5.2~6) (表 19.5.1~5)

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	備考
・フローリングボード 1等	・ぶな	◎15	・釘止め工法(根太張り)	
・	・12 以上	・	・釘止め工法(直張り)	
・	・さくら	・	・接着工法	
・フローリングボード 1等 (体育館用)	・いたや	・		
・	◎15	・	・接着工法	303×303

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・フローリングボード 1等	・ぶな	◎15	・釘止め工法(根太張り)			
・	・なら	・	・釘止め工法(直張り)			
・	・さくら	・	・接着工法			
・フローリングボード 1等 (体育館用)	・いたや	・				
・	◎15	・	・接着工法	303×303		

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・天然木化粧複合フローリング張り	・一般用	◎なら	・釘留め工法(根太張り)	・A種	・	
・	・住宅用	・	・釘留め工法(直張り)	・B種	・	
・	・	・	・接着工法	・C種	・	
・	・	・	・	◎D種	・	
・	・	・	・			

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	
・	・	・	・	・	・	

種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種類	備考

<tbl_r cells="7" ix="2" maxcspan="1" maxrspan

R7 除去土壤等集約地分別ヤード新築工事 特記仕様書

21章 排水工事

21-1 排水管 (21.2.1, 2) (表 21.2.1, 2)			
配水管用材料	管の種類	管形状 (接合方法)	
◎遠心力鉄筋コンクリート管	◎外圧管 (1種2種)	B形 (ゴム接合)	
・硬質塩化ビニル管	◎PVU・		

車道部の配水管の敷設 ◎図示
現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度◎18N/mm²
現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ◎SD295
材質 鋼製・合成樹脂被覆加工されたもの

凍上抑制層の厚さ ◎図示
凍上抑制層に用いる材料
砂の粒度試験 行う・行わない

21-2 排水橋及びふた (21.2.1)

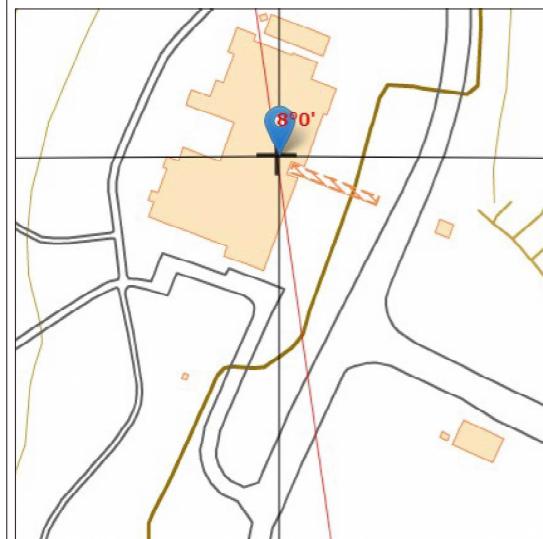
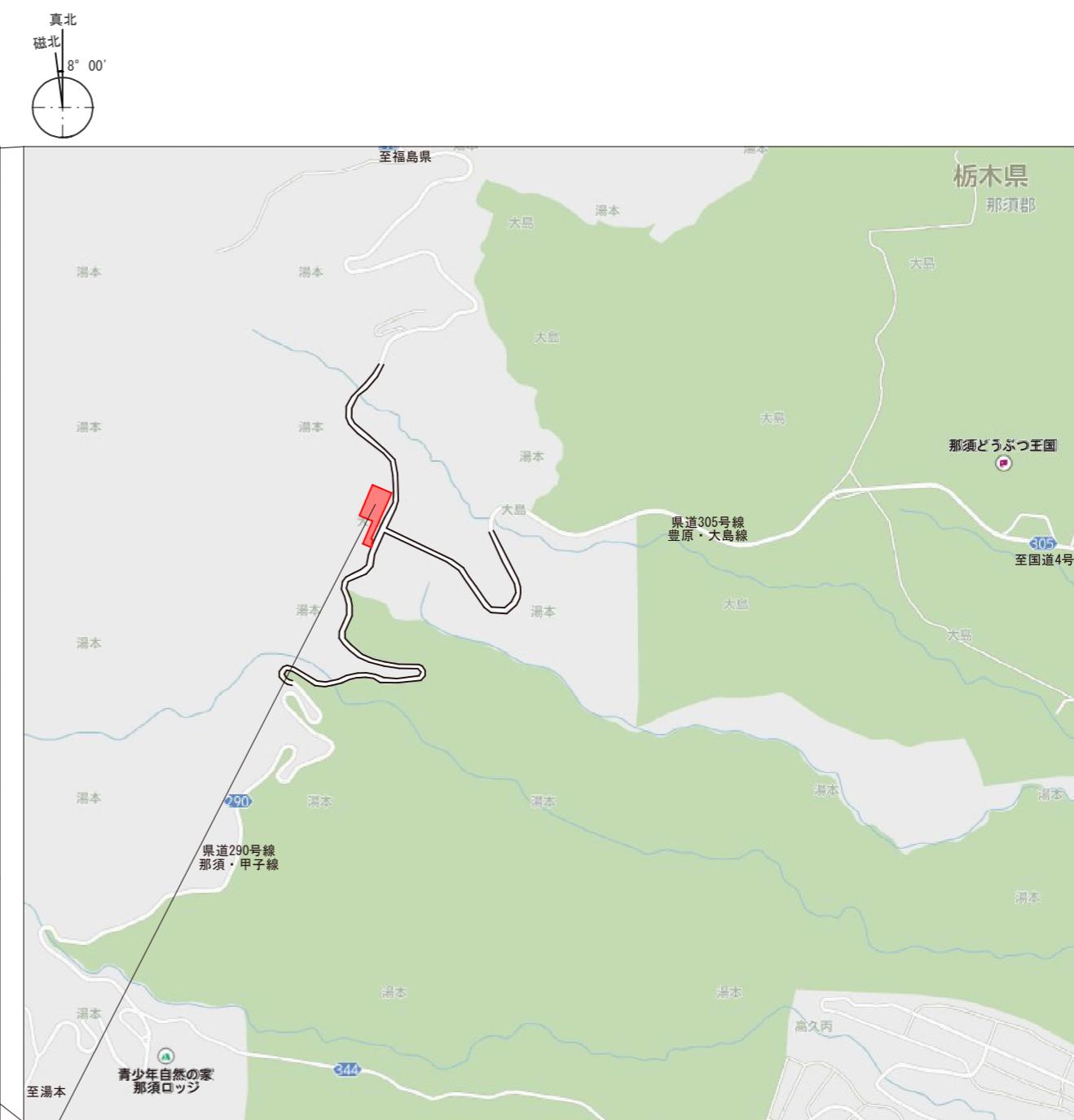
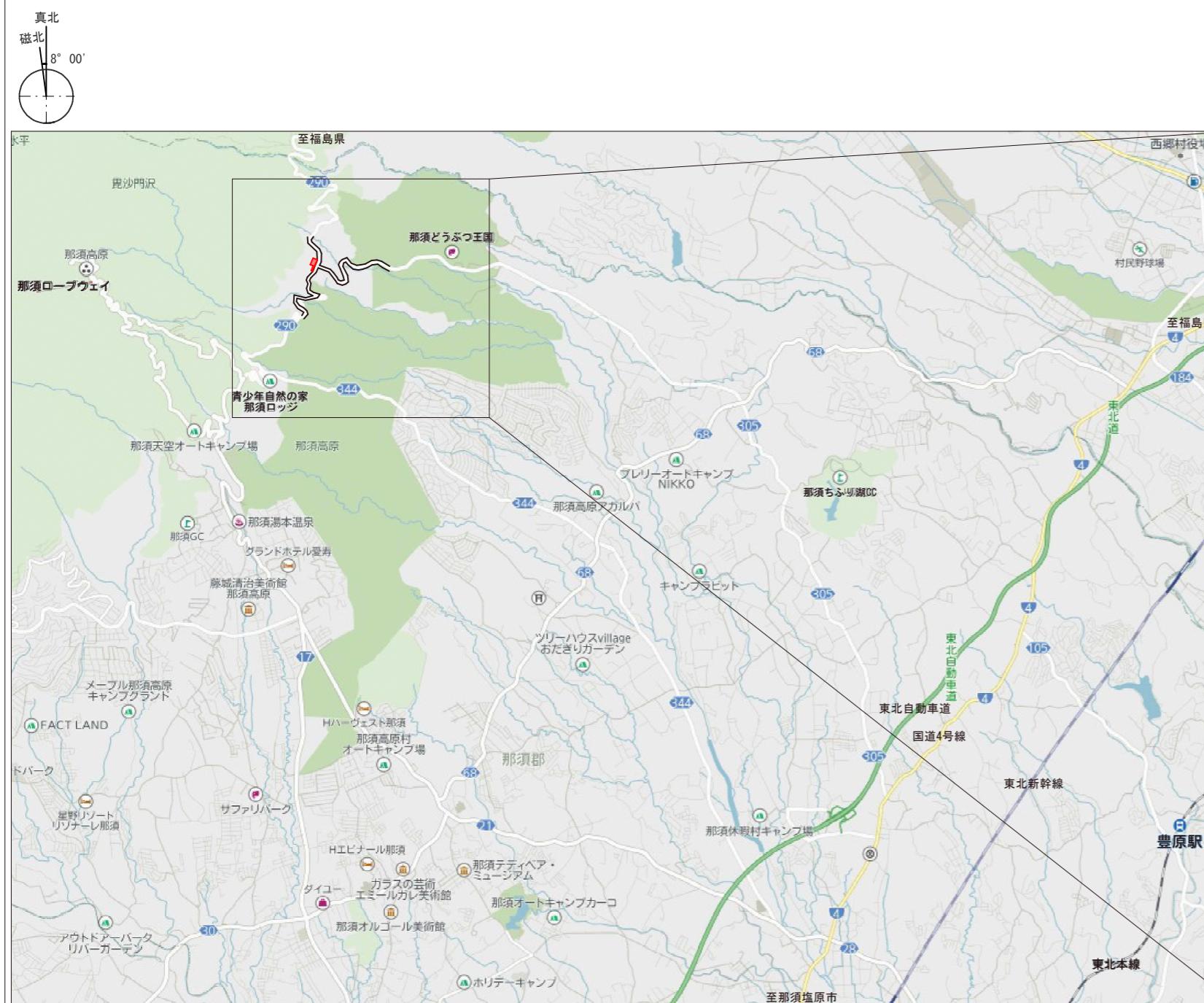
鉄製マンホールふた			
種類		適用荷重	
・水封形	・T-2用	・溝ふた用	・歩行用
・簡易密閉形 (パッキン式)	・T-6用	・樹ふた用	◎細目
・密閉形 (テーパ・パッキン式)	・T-20用	・かさ上げ用	・平形
・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式)	・RS-VU[G]	・U字溝用	・細目
製造所: 評価名簿による		・図示	・
材質	形式	用途	適用荷重
・鋼製	◎受栓付き	・溝ふた用	・歩行用
・ステンレス製	・ボルト固定	・樹ふた用	◎細目
◎無	・U字溝用	・かさ上げ用	・平形
・図示	・	・T-14用	・
		・T-20用	・

22章 補装工事

22-1 盆土に用いる材料 (22.2.3)			
・A種	・B種	・C種	・D種
22-2 凍上抑制層の材料 (22.2.3)			
・再生クラッシャランG	・クラッシャラン	・切込み砂利	・砂
22-3 路床安定処理材料 (22.2.3) (表 22.2.1)			
・添加材料による安定処理	・普通ポルトランドセメント	・フライアッシュセメントB種	
種類	・生石灰 ()	・消石灰 ()	
添加量	・kg/m ³ (目標CBR・5以上)	・	
22-4 試験 (22.2.5)			
路床土の支持力比 (CBR) 試験	・行う (・乱した土・乱さない土)	・行わない	
路床締固度の試験	・行う	・行わない	
砂の粒度試験	・行う	・行わない	
現場CBR試験	・行う	・行わない	
セメント及びセメント系固化剤を使用した路床安定処理を行った場合の六価クロム溶出試験			
◎行う 「セメント及びセメント系固化剤を使用した六価クロム溶出試験要領(案)」による。			
22-5 路盤材料 (22.3.2, 3.5) (表 22.3.1)			
◎再生クラッシャラン (RC-40) [G]			
・クラッシャラン鉄鋼スラグ (OS-40) [G]			
・クラッシャラン (O-40)			
透水性アスファルト舗装に用いる場合は透水性の高いもの			
22-6 路盤の締め固め度試験 (22.3.5)			
◎行う			
22-7 アスファルト舗装 (22.4.2~6) (表 22.4.4)			
車道部の基層 ◎無			
アスファルト ◎再生アスファルト [G]	・ストレートアスファルト		
・加熱アスファルト混合物の種類			
区分	・一般地域	・寒冷地域	
表層	・密粒度アスファルト混合物 (13)	・密粒度アスファルト混合物 (13F)	
・細粒度アスファルト混合物 (13)	・細粒度アスファルト混合物 (13F)		
・アスファルト混合物の抽出試験	・行わない	・行う	
22-8 コンクリート舗装 (22.5.2~4, 6) (表 22.5.1, 3)			
コンクリート ◎普通コンクリート、標示表 22.5.1 による			
・普通コンクリートではない場合は下記による			
コンクリートの種類			
設計基準強度			
所定のスランプ	◎8		
粗骨材の最大寸法			
早強ポルトランドセメント	・使用する	・使用しない	
注入目地材料	◎低弾性タイプ	・高弾性タイプ	
溶接金網	・有	・無	
厚さ試験	・行わない	・行う	
22-9 カラー舗装 (22.6.2~4)			
・加熱系カラー舗装			
材料	区分	車道部の基層 (mm)	厚さ
・有機骨材 (焼成) ・自然石	・車道・歩道	◎なし	・あり
・着色骨材 (樹脂皮膜)			
・常温系カラー舗装			
工法	・ニート工法	・塗布工法	
着色部の下部	・アスファルト舗装	・コンクリート舗装	

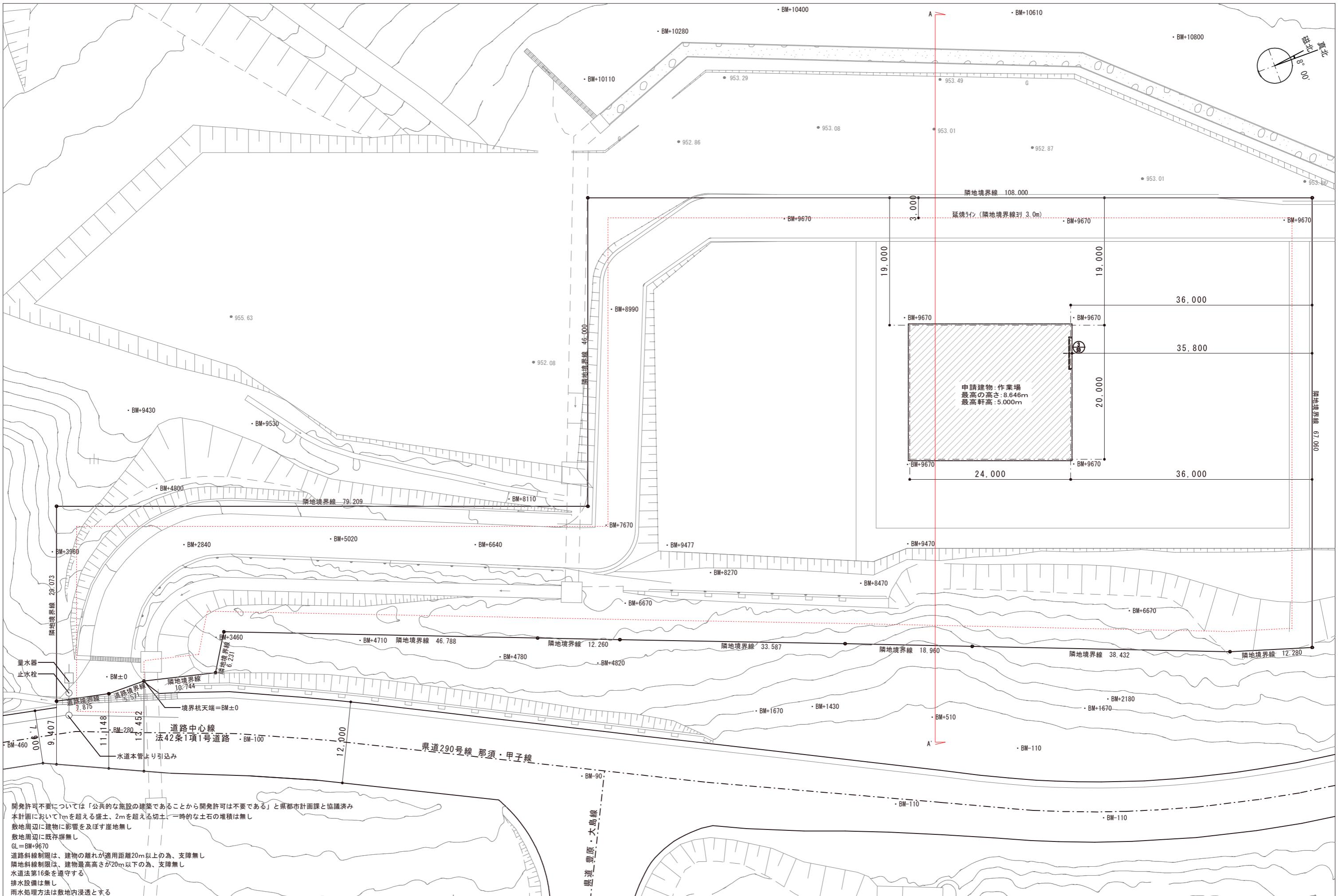
22-10 透水性アスファルト舗装			
アスファルト混合物等の抽出試験	・行う	・行わない	
22-11 ブロック系舗装 (22.8.2, 3)			
・コンクリート平板舗装 [G]			
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材
◎普通平板 (N)	・透水平板 (P)	◎300 角	◎砂
・保水性平板 (M)			・モルタル
クッション材 ◎砂	・空練りモルタル		
製造所: 監督職員の承諾する製造所			
・インターロッキングブロック舗装 [G]			
種類	厚さ (mm)	色彩及び表面加工等	
◎標準ブロック (N)	車道部 ◎80	◎標準品	
・透水性ブロック (P)	歩道部 ◎60		
・誘導、注意喚起用ブロック			
・植生ブロック (V)	◎80 ~ 100		
・舗石舗装 (歩行者用通路) の構成及び厚さ ◎図示			
種類	厚さ (mm)	施工方法	基層
◎小舗石 (花こう岩)	◎80~100	◎うろこ張り	・コンクリート版
			・アスファルト混合物
22-12 路面標示用塗料			
路面標示用塗料は JIS K 5665 による。			
種類	施工	適用	色
・3種 1号	溶融	粉体状	◎白
・1種 [G]	常温	液状	・
・2種 [G]	加熱		・100
			・1.0
			塗布厚さ (mm)
			塗料総質量に対して 5% 以下

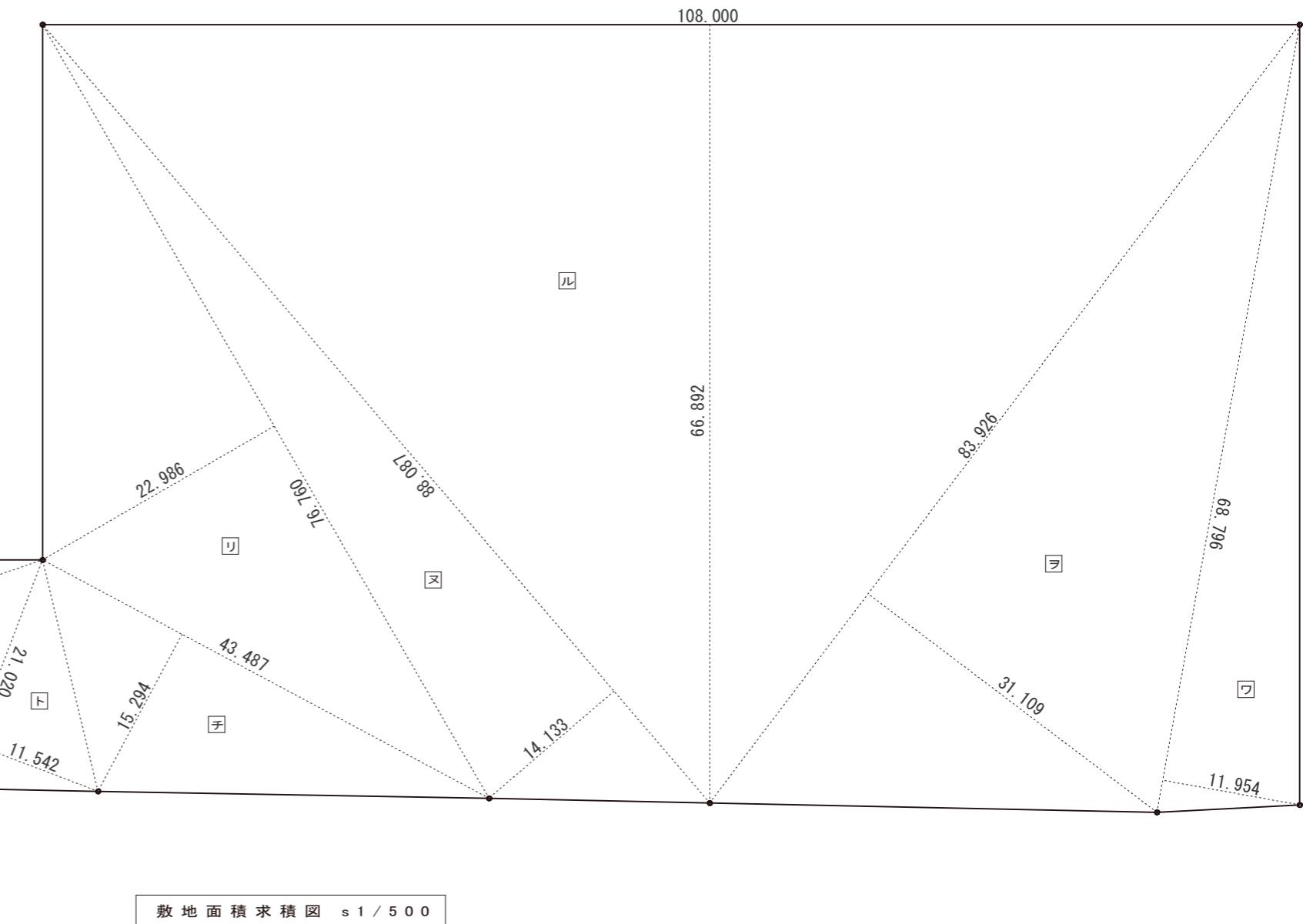
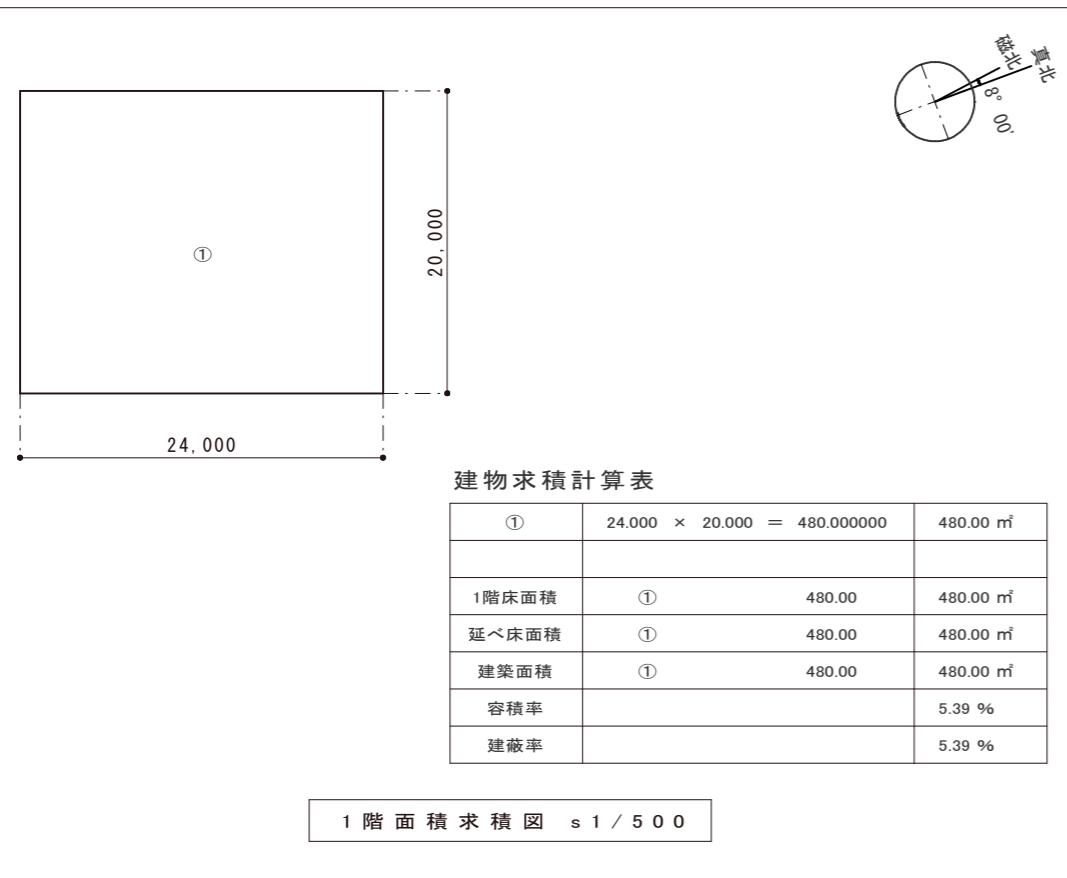
23-1 樹木の植栽基盤整備 (23.2.2, 4)			
◎行う			
樹木の樹高 (m)	有効土層の厚さ (cm)	工法	整備範囲
・12m 以上	◎100	◎A種	・葉張りの範囲
・7m 超~12m 未満	◎80	・B種	ただし、低木は植栽範囲
・3m 超~7m 未満	◎60	・C種	・
・3m 未満	◎50	・D種	・
・芝、地被類	◎20	◎B種	・植栽範囲
			・図示
23-2 植込み用土 (23.2.3)			
土壌改良材の適用			
・適用する	・パーク堆肥 [G] (50 リットル/m ³) または発酵汚泥コンポスト (10 リットル/m ³)		
施工箇所	・植栽範囲	・	
23-3 支柱材 (23.3.2, 3)			
◎杉の丸太 (間伐材) [G]	・真竹 (良質な 2 年生以上)		
23-4 支材 (23.3.2, 3)			
◎杉の丸太 (間伐材) [G]	・真竹 (良質な 2 年生以上)		
23-5 看板用材 (23.3.2)			
材料	◎巻き用テープ	・わら及びこも	
23-6 芝張り (23.4.2, 3)			
種類	◎こうらい芝	・野芝	
工法	・目地張り	・べた張り	
23-7 屋上緑化 [G] (23.5.2~4)			
基盤及び材料			
・屋上緑化システム			
・土壤層の厚さ ◎図示			
排水層	・軽量骨材 (層の厚さ:)	・板状成型品	
植込み用土	・改良土	・人工軽量土	
透水層	・保水層及び排水層		
・屋上緑化軽量システム			
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類等 ◎図示			
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ◎図示			
工法			
支柱	・設置する (形式:)	・	
かん水装置	・設置する (種類:)	・	
23-8 オール・擁壁 (公住仕 23.6.2)			
調査支持力試験	・行う (方法:)	・	・行わない
石の種類			
施工箇所	品質	種類・産地・名称	厚さ (mm)
種類	・現場打ち擁壁	・ブリッジ式擁壁	・
	・石積 (張) 擁壁	・その他擁壁 (・レングウォール・タイルウォール・コンクリートブロックウォール)	
23-9 檻 (公住仕 23.9.2)			
・バイガ 檻			
・カットジョイ (種類・図示・寸法・図示)			
・焼丸太 (材種・形・寸・検・・)			
23-10 自転車置き場ユニット (公住仕 23.10.2)			
公共住宅の品質及び性能 (・品質・性能基準) による			
収容台数 (台)			
23-11 物置ユニット (公住仕 23.10.3)			
材質	寸法	形状	備考
	・図示	・図示	
24章 PC			



国土地理院地図 磁気図(偏角)2020.0年値

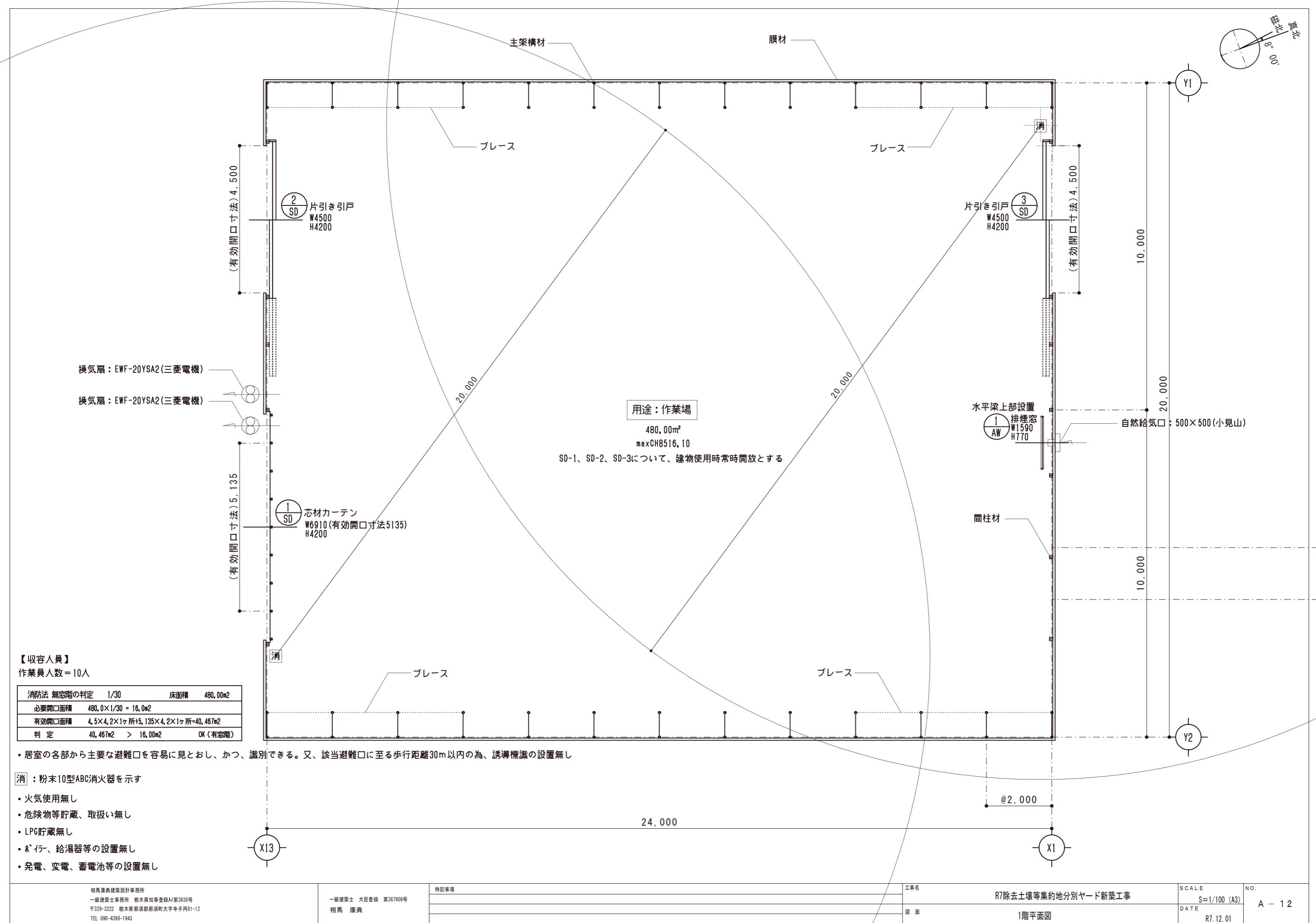
相馬康典建築設計事務所 一級建築士事務所 栃木県知事登録A(第3638号) 〒329-3222 栃木県那須郡那須町大字寺子丙81-12 TEL 090-4398-1943	特記事項 一級建築士 大臣登録 第367608号 相馬 康典	工事名	R7除去土壤等集約地分別ヤード新築工事	SCALE S=NS (A3)	N.O. A - 08 DATE R7.12.01

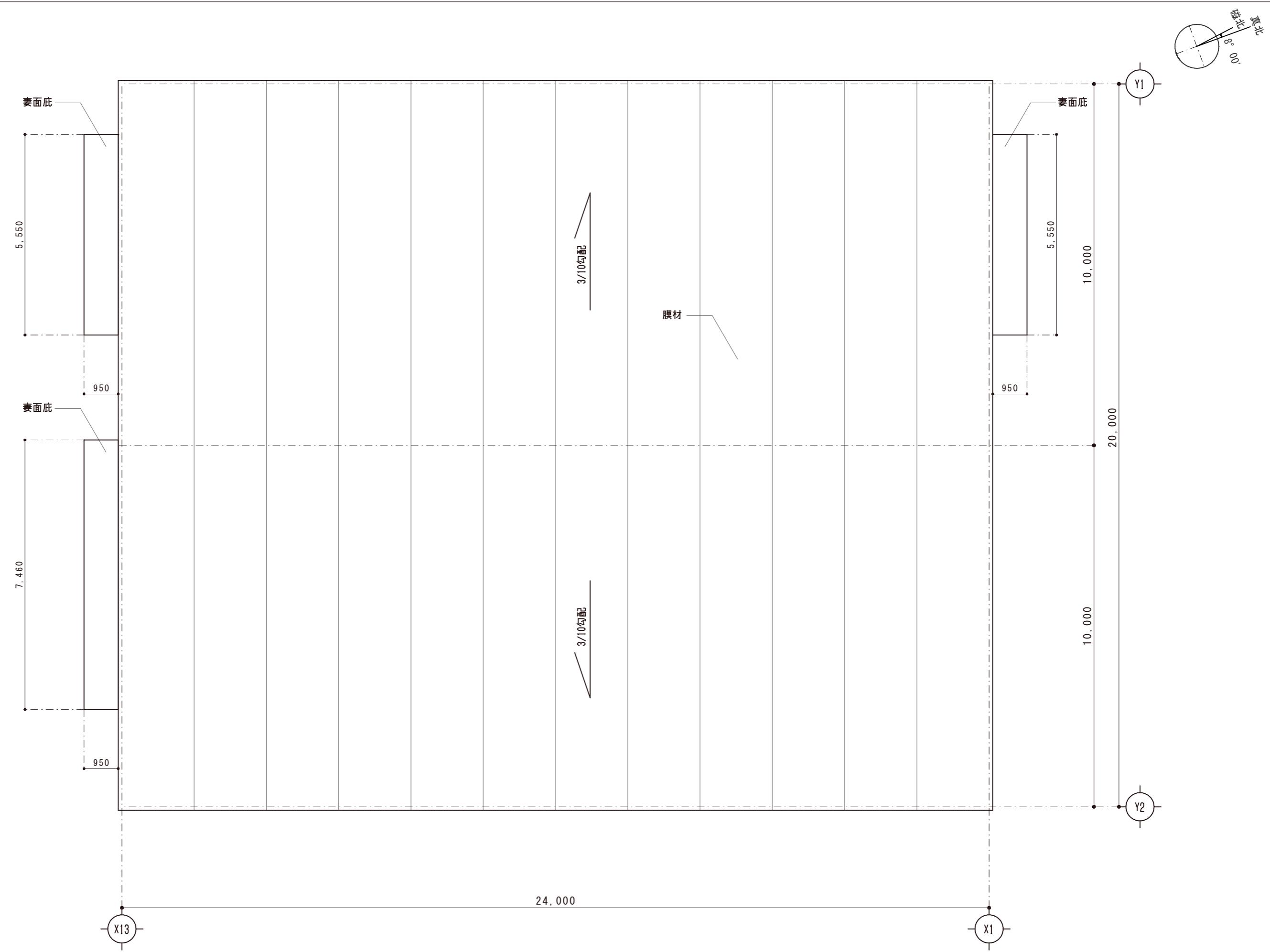


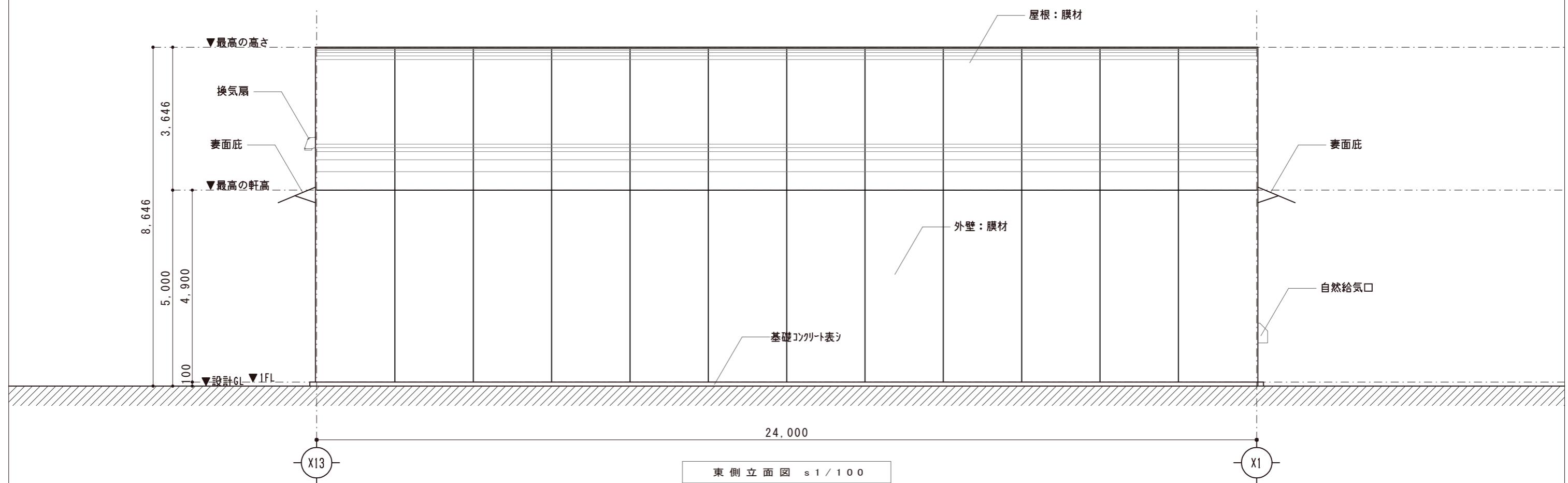
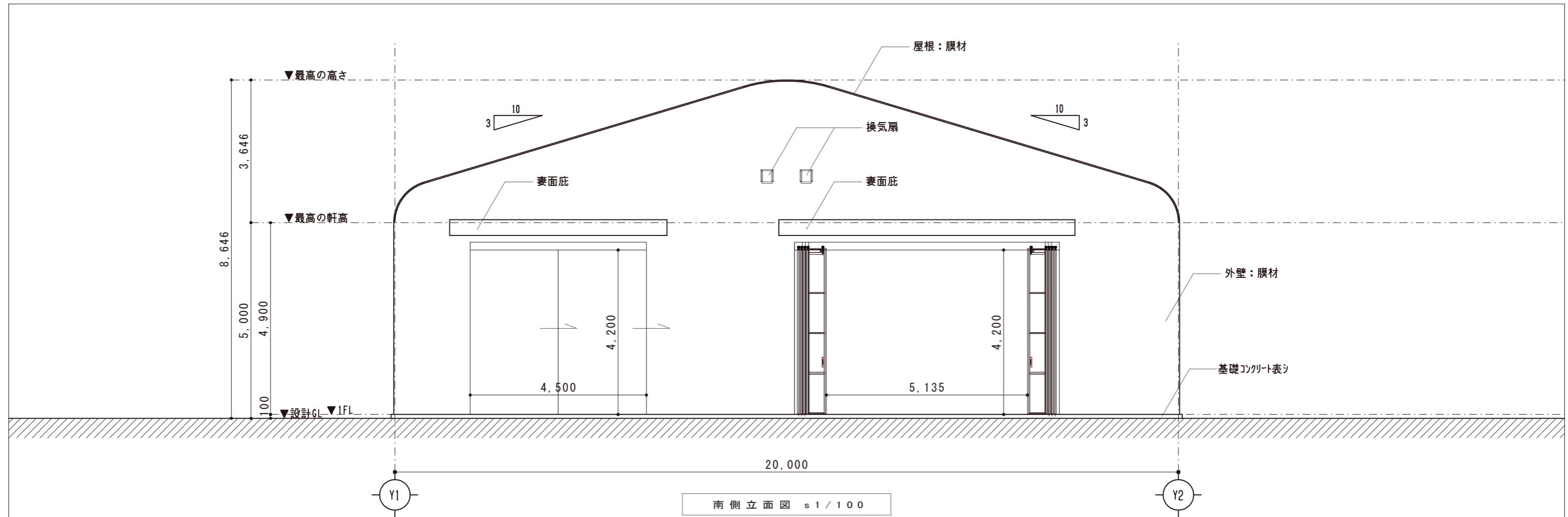


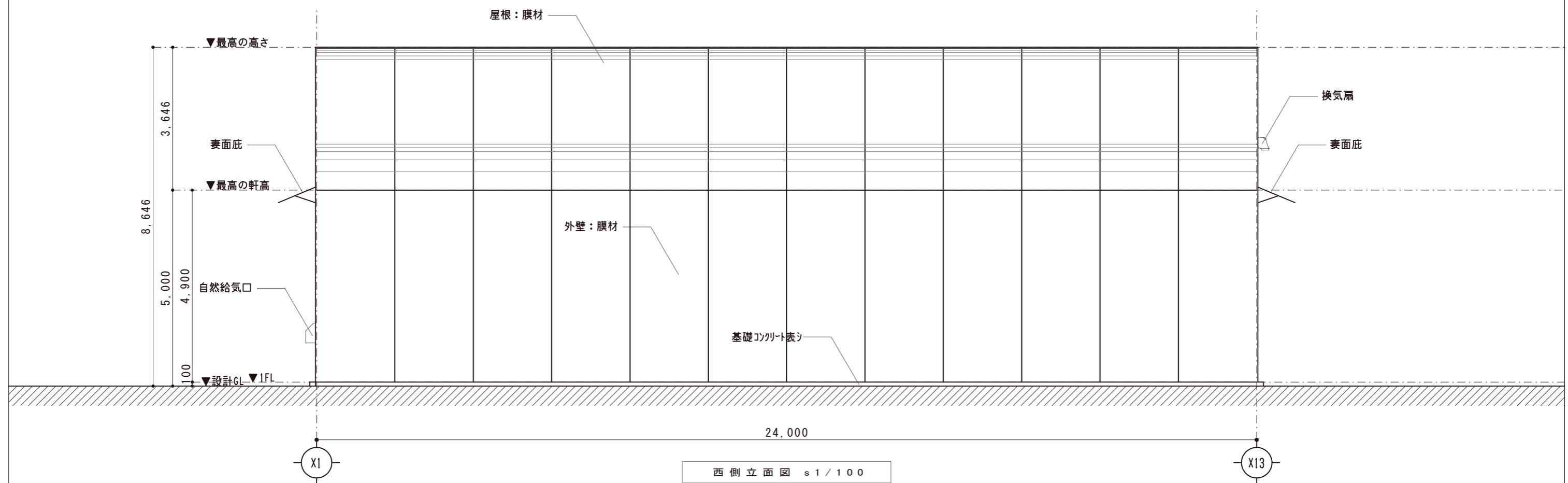
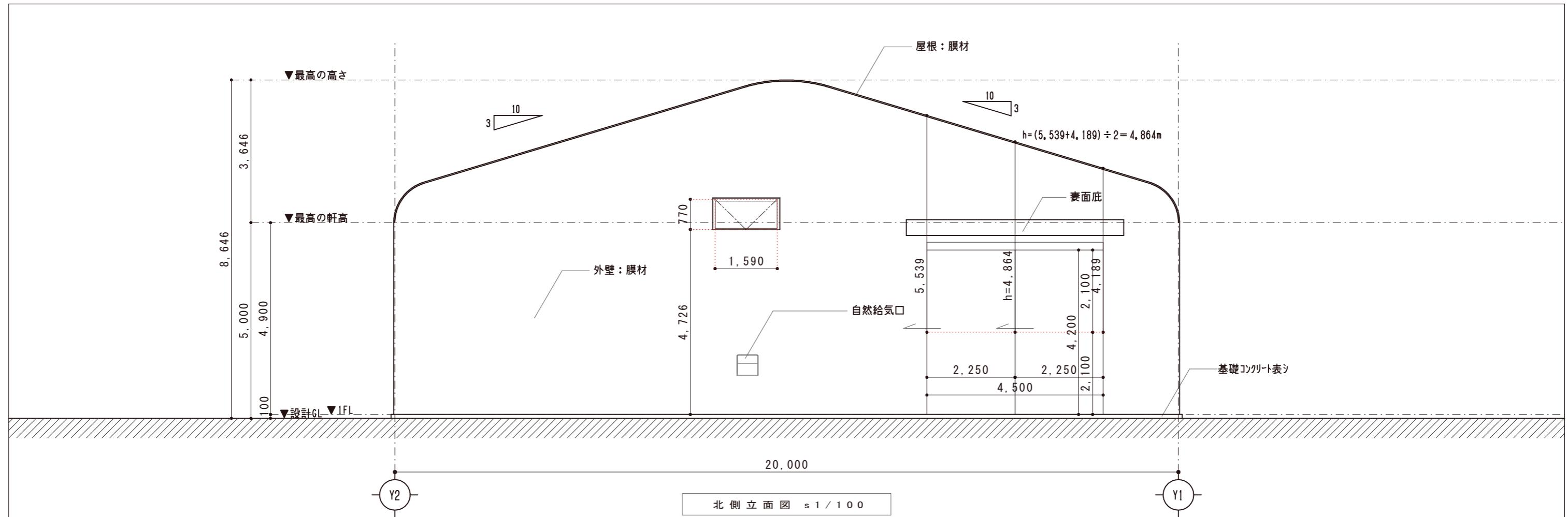
敷地求積計算表

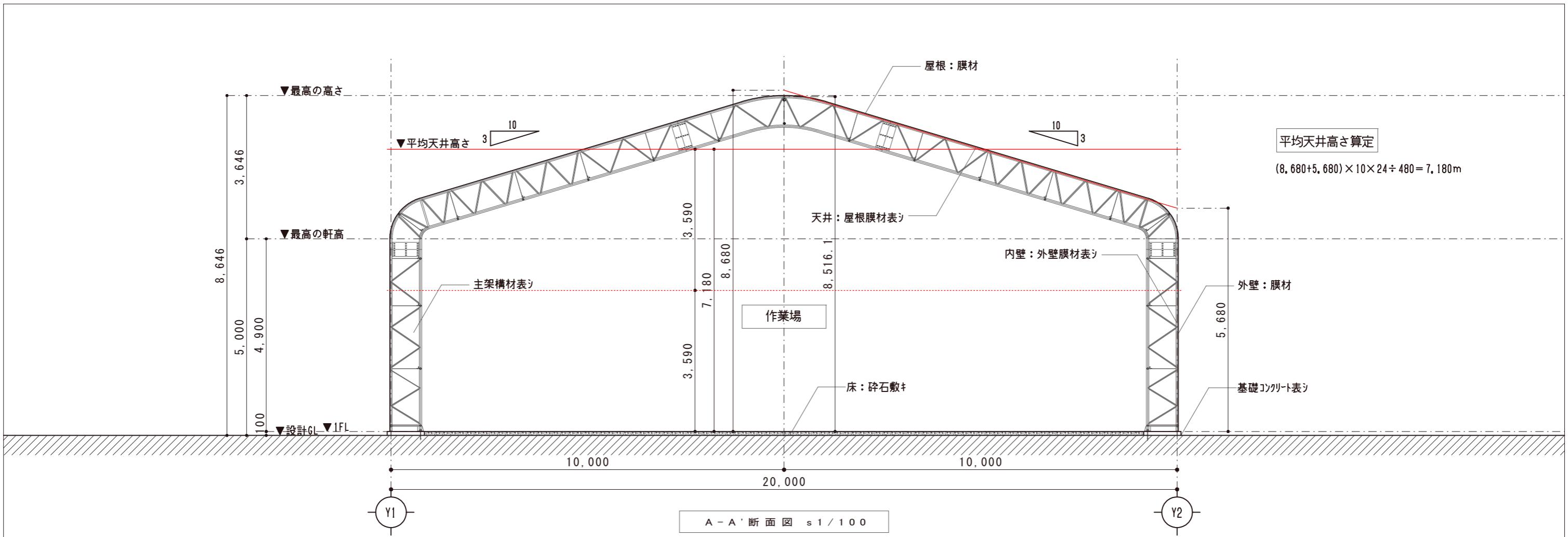
イ	$29.016 \times 7.809 = 226.585944$	リ	$43.487 \times 15.294 = 665.090178$	合計	17840.806121
ロ	$29.016 \times 5.555 = 161.183880$	リ	$76.760 \times 22.986 = 1764.405360$	面積	(合計 × 1/2) 8920.4030605
ハ	$34.328 \times 8.572 = 294.259616$	リ	$88.087 \times 14.133 = 1244.933571$	地積	8920.40 m ²
二	$34.328 \times 5.113 = 175.519064$	ル	$108.000 \times 66.892 = 7224.336000$		
木	$79.209 \times 18.720 = 1482.792480$	リ	$83.926 \times 31.109 = 2610.853934$		
ヘ	$57.399 \times 16.130 = 925.845870$	リ	$68.796 \times 11.954 = 822.387384$		
ト	$21.020 \times 11.542 = 242.612840$				











採光チェック

室名	床面積 m ²	必要採光面積 m ²	開口部面積 m ²	採光補正係数	有効採光面積 m ²	判定
作業場	480.00	480.00 × 1/20 = 24.000	SD-3 : W4.500 × H4.200 = 18.90	35.800 / 4.864 × 10 - 1.0 = 72.60 → 3	56.70	OK

換気チェック

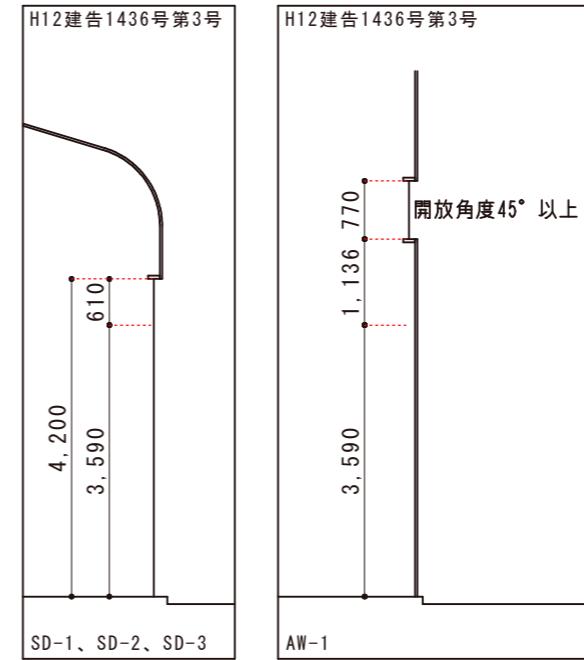
室名	床面積 m ²	必要開口面積 m ²	開口部面積 m ²	判定
作業場	480.00	480.00 × 1/20 = 24.000	SD-2 : W4.500 × H4.200 = 18.90 SD-3 : W4.500 × H4.200 = 18.90 合計 37.80	OK

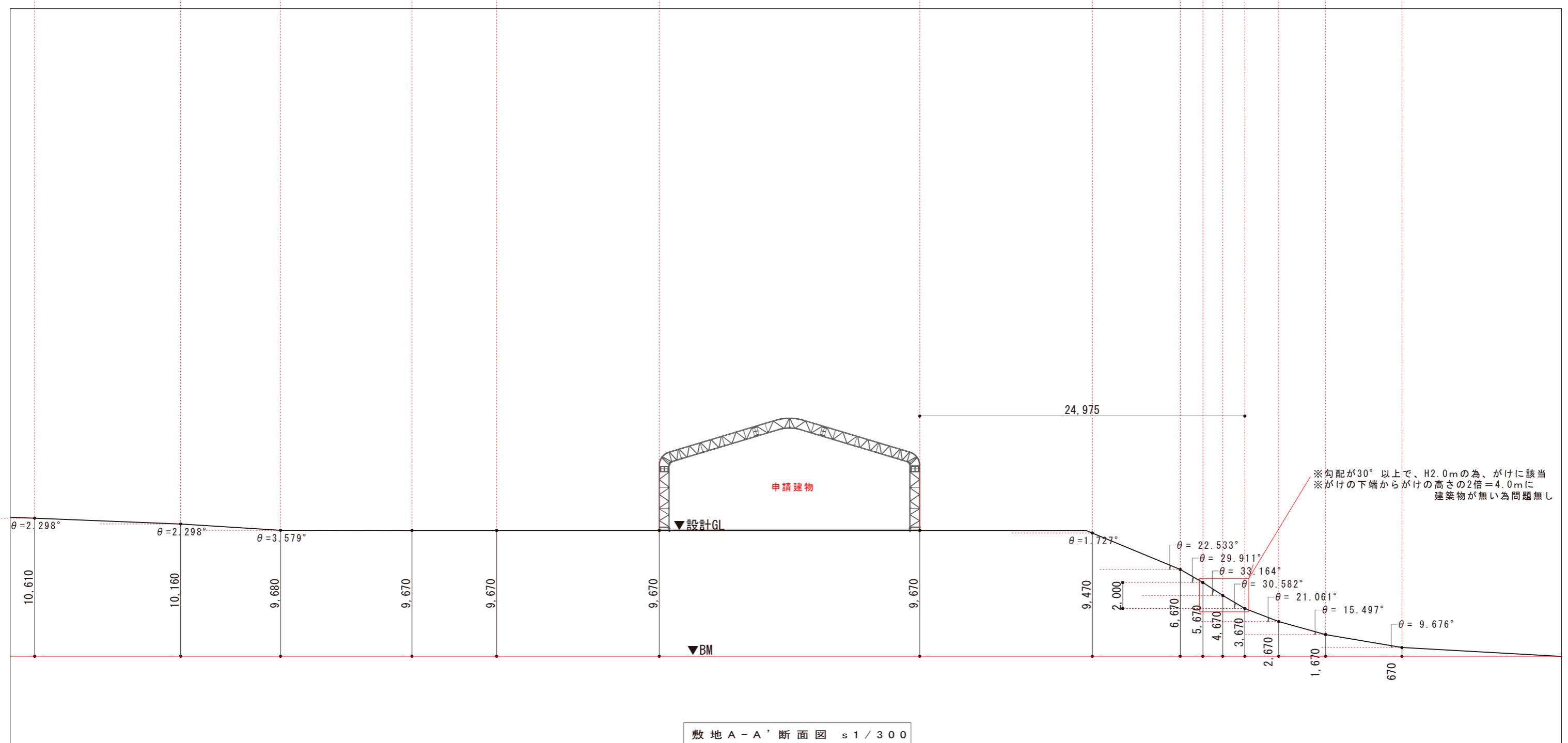
排煙チェック

室名	床面積 m ²	必要開口面積 m ²	開口部面積 m ²	判定
作業場	480.00	480.00 × 1/50 = 9.600	SD-1 : W5.135 × H0.610 = 3.13235 SD-2, -3 : W4.500 × H0.610 = 2.745 × 2 = 5.490 AW-1 : W1.590 × H0.770 = 1.2243 合計 9.84665	OK

シックハウス対策(24時間換気)計算書

	室名	床面積 m ²	平均天井高 m	気積 m ³	排気機による排気量 m ³ /H	換気回数 n	備考
1階	作業場	480.00	7.180	3446.4	660 × 2台 = 1320	0.38 > 0.3 OK	第三種換気 換気扇 : EWF-20YSA2(三菱電機) 給気口 : 500 × 500(小見山)





相馬康典建築設計事務所 一級建築士事務所 栃木県知事登録A/第3638号 〒329-3222 栃木県那須郡那須町大字寺子丙81-12 TEL 090-4398-1943	特記事項	工事名 R7除去土壤等集約地分別ヤード新築工事	SCALE S=1/300 (A3)	NO. A - 17
		図面 崖地検討断面図	DATE R7.12.01	